

アマ クサ シ
天草市



馬場 昭治 市長

天草市は、素晴らしい自然やキリシタンの歴史・南蛮文化を代表とする独自の文化、豊かな農林水産資源があります。一方で、少子高齢化による人口減少は私たち地方の最大の悩みであり、このような中であっても、市民一人一人が幸せを感じ、いつまでも住み続けたいと思う魅力あるまちづくりを目指さなければなりません。そのためにも、市民と行政が相互の信頼関係を築きながら、共にまちづくりに取り組んでいくことが重要であり、将来にわたって夢と希望に満ちあふれたまちづくりをすすめています。

寄付
御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額100万円以上)
- ・感謝状贈呈
- ・地公体広報誌掲載
- ・HP掲載
- ・視察受入
- ・功労者表彰推薦
- ・紺綬褒章推薦(寄付額1000万円以上)
- ・その他

人口
総人口……75,327人
男……35,047人
女……40,280人
世帯数…32,438世帯

面積
総面積……………683.82km ²
農用地……50.70km ² (7.4%)
森林…462.14km ² (67.6%)
宅地……18.70km ² (2.7%)

産業構造
第1次産業……15,582(7.4%)
第2次産業…26,679(12.7%)
第3次産業 167,764(79.9%)
生産総額:百万円

高等教育機関
熊本県立天草工業高等学校 (機械科/電気科/土木科/情報技術科)
熊本県立天草高等学校 全日制課程(普通科)/定時制課程(普通科)
熊本県立天草拓心高等学校 本渡校舎 (商業科/生物生産科/食品科学科/生活科学科)
熊本県立牛深高等学校 (総合学科)

人口構成比
15歳未満……11.2%
15～64歳……47.1%
65歳以上……41.8%

教育機関
小学校……………17校
中学校……………13校
高等学校・高専……6校
大学・専門学校他…2校



交通アクセス
■天草市役所まで
天草空港から……………約6.5km
本渡バスセンターから……………約0.8km
松島有料道路 上津浦ICから…約15km

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

天草市まち・ひと・しごと創生推進計画

〈SDGs〉関連するゴール



まち・ひと・しごと創生推進事業

- 基本目標1** 天草を支える産業の発展と安定した雇用を創出する
 「しごと」と「ひと」の好循環を確立するため、企業誘致や事業者支援に取り組みます。また、天草地域の次世代を担う人材の地元での就職を促進していきます。
- 基本目標2** 天草への新しいひとの流れをつくる
 移住希望者の視点に立った環境整備や、本市に縁のある方とのつながりを創出する「関係人口」の取り組みを行うことにより、将来的な移住定住やまちづくりの活性化につなめます。
- 基本目標3** 誰もが活躍できる地域社会をつくる
 安心して働くことができる職場環境づくりを促進し、結婚・妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援を行うことにより、誰もが活躍できる社会づくりに取り組みます。
- 基本目標4** 市民が誇りを持ち安心して暮らせる地域をつくる
 家族や地域の中において、人々が絆を深め、心豊かに生活できる地域コミュニティの維持や形成を図ることで、地域の特性に即した地域課題の解決、活性化に取り組みます。

▶▶▶ 天草市

重点
プロジェクト

スポーツの拠点づくり

分類 まちづくり

総事業費	2,440,000千円	寄附目標額	—
計画期間	地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2025年3月31日		
数値目標	●年間利用者数 …………… 51,000人 ●大会及び合宿誘致数 …………… 24件		

〈SDGs〉関連するゴール



天草市スポーツ拠点整備事業

市民の健康づくりや子どもたちの体力増進及び競技力の向上ができる環境づくりと、スポーツ大会やスポーツ合宿の積極的な誘致により市外からも多くの来訪者を呼び込み、スポーツを通じた交流人口の増加による地域活性化を図るためにも、拠点となる施設の整備が必要となっています。

そのため、令和4年4月にスポーツに関連する様々な取り組みを推進する組織となるスポーツコミッションを設立し、市民の健康づくりや競技力向上を図るだけでなく、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致なども含めた取り組みを推進することで、子どもたちに天草で一流のスポーツ選手と交流できる機会を増やしていきます。

併せて、スポーツ拠点施設を整備することで、ソフト面とハード面の両面からのスポーツによる地域活性化を図ります。

今回整備する拠点施設は、400mトラックに加え、一周1000mの起伏のあるコースやサッカーコートも併せて整備します。また、障がい者スポーツの普及を図るため、障がい者のスポーツ大会も開催できるような使いやすいスポーツ施設として整備することとしています。



イメージ図

重点
プロジェクト

自然とともに創るまち

分類 その他(環境教育・環境保全)

総事業費	9,720千円	寄附目標額	—
計画期間	地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2025年3月31日		
数値目標	●環境保全活動を行っている市民の数 …………… 21,000人		

〈SDGs〉関連するゴール



イルカと共存できる環境づくり

天草下島の北側にある早崎海峡は、有明海の入り口であることから潮流が速く、プランクトンの発生が活発です。そのため豊富な魚類が集まる漁場となっており、これらの魚を餌とする野生のイルカが古くから漁業者と共存しながら多く生息しています。このような環境は、世界的に見ても珍しく、地域の貴重な観光資源としても大きな役割を担っています。

近年の地球温暖化に伴う気候変動により、温室効果ガスの削減に対する意識や関心が高まっていますが、いつまでも身近にイルカが住んでいるという豊かな自然環境を後世に引き継いでいくためには、その要因について把握し、守っていく必要があります。

そのため令和4年度から、大学などの専門機関の協力が得ながら現地での実態調査を進め、調査で得た情報を環境教育などの学びの場で活用し、市民の環境保全に対する意識の高揚に繋げていくこととしています。また、イルカウォッチングについても、体験だけでなく教育に関するプログラムを取り入れたサービスを提供することで、その価値を高めていきます。

いつまでも「人とイルカが共存している天草」を、環境保全の一つの大きなテーマとして取り組んでいきます。



野生のイルカ

課題 1 移住から定住の島へ



移住相談会の様子

多くの移住者を(平成20年度から令和3年末までに424世帯800人)受け入れていますが、移住希望者の住まいや就労などに対するニーズは様々で、移住相談の内容も多様化しています。また、移住者がいつまでも天草に住んで良かったと思えるように、移住から定住に向けたサポート体制として、移住者を移住定住コーディネーターとして活用し、手厚いサポート体制を整えています。

また、より手厚いサポートを行うため、様々なアイデアやご支援をお願いします。

課題 2 安心して子どもを産み、育てたい

子育て支援は、利用する子育て家庭によってニーズが異なります。そのため、ひとり親世帯や特別な支援を要する子ども等、妊娠期から子育て期にかけて、それぞれの課題に応じた支援が必要となっています。そのため、子育て世代包括支援センターを開設し、母性並びに乳幼児の健康の保持及び増進の支援、各種相談、保健指導などを行っています。

また、地域において、子どもや子育て家庭を応援する活動(子ども食堂等)を行う団体などと官民一体となって子どもの健やかな成長と保護者の子育てを支えるまちづくりを目指しており、企業様からのご支援をお願いします。



子育て支援活動の様子

課題 3 第1次産業の担い手を確保したい



新規就農者の作業風景

人口の減少に伴い、農林水産業の担い手が減少しており、農業においては、農村集落のコミュニティ機能の維持が困難になったり、耕作放棄地の増加が懸念されています。水産業においては、漁業生産量の維持向上を行っています。そのため、農林水産業の将来に渡る担い手の確保を図るため、新たに就業したい人に対する技術的な研修の実施や、就業開始から経営が安定するまでの数年間、市独自の給付金事業を展開することで、担い手の確保を図っています。

課題 4 恐竜の島づくりを推進

天草地域では、全国的にも貴重な恐竜の化石や古代生物の化石が発見される地域であり、これらの大地の遺産を、学術的研究と教育での活用を進め、自然環境の保護保全活動の推進を図っています。現在、令和6年3月の開館を目指して、「御所浦恐竜の島博物館」の整備を進めており、天草地域の大地の遺産を観光資源と密接に連携させることによる、より魅力的なツーリズムの構築を目指しており、企業様からのご支援をお願いします。



化石採集体験の様子

課題 5 陶石の島から陶磁器の島へ



天草大陶磁器展の様子

天草地域では、地域の特徴ある資源として陶石が産出されるものの、全国的な陶磁器の産地としての知名度は高くなく、若手陶芸家が少ないという課題があります。「天草陶磁器」として国の伝統的工芸品の指定も受けていることから、地域の特徴ある産業としてより一層産地化としての取組みが必要です。

そのため、市内の窯元だけでなく県内外の窯元も参加する「天草大陶磁器展」を開催し、「陶石の島から陶磁器の島」としての産地化に取り組んでいます。

課題 6 海の玄関口”本渡港”に新たな賑わいを

天草の中心地である本渡地区の海の玄関口である本渡港は、人口の減少や車社会の進展により交通結節拠点としての機能が弱くなってます。(仮称)第二天草瀬戸大橋の整備を契機として、港としての機能性の向上と、交通の結節拠点だけではない複合的な機能を持った交流拠点としての整備が必要となっています。そのため、市民の交流の場や学びの場としての機能を創出し、周辺地域も含めた活性化が図られる拠点施設の整備するため、企業様からのアイデアやご支援をお願いします。



現在の本渡港周辺

課題 7 子どもたちに生きる力を!



体験学習の様子

将来を担う子どもたちの「生きる力」を育成するため、総合的な学習の時間を活用して、天草の伝統・文化・自然・歴史等に触れ合う機会をつくり、体験活動を通して自分で考え主体的に判断、行動し、問題解決ができる力を育む『天草市体験教育学』に取り組めます。

また、世界文化遺産である「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つである崎津集落の現地学習を行い、郷土愛の醸成を図る『世界遺産学』にも取り組むなど、地域の特色を生かした学びの場を創出しています。

課題 8 命の翼「みぞか号」の利用促進

天草空港と福岡空港・熊本空港を結ぶ天草エアライン(株)は、保有機が1機の日本一小さな航空会社です。九州最大の都市である福岡市とを35分で結ぶ航路は短時間でアクセスできる貴重な交通手段となっています。また、その利便性から、都市部から天草に来る医師の交通手段としても利用されており、「命の翼」として地域医療の維持のためにも重要な役割も担っています。利用客が減少し厳しい経営状況ですが、天草エアラインの利用を促進することで、天草地域全体の振興に繋げていくこととしています。ぜひご支援をお願いします。



天草エアラインが保有する通称「みぞか号」